

る方針である。このような出題方針の下、出題数を維持しつつ十分な試験時間を確保するため、現行の試験時間を踏まえ、保健師国家試験及び助産師国家試験においては試験時間を延長することが望ましい。看護師国家試験においては現状維持とする。

(※) 7) 評価領域分類 (Taxonomy) において後述

5) 既出問題について

既出問題の活用は、難易度の安定化の観点からも有用であり、引き続き活用する。

看護師国家試験における必修問題は、看護師にとって特に重要な基本的事項を問うものであることから、限られた範囲の中で繰り返し問うことが妥当であると考えられる。そのため、重要な基本的事項を繰り返し出題するなど、必修問題においてはより積極的に既出問題を活用していく。

また、保健師助産師看護師国家試験の一般問題及び状況設定問題において既出問題を活用する際には、活用する既出問題の正解率等をよく吟味した上で選択し、表現や選択肢を変更する際には、難易度への影響に留意し検討することが必要である。

6) 出題形式について

現行の保健師助産師看護師国家試験においては、4肢Aタイプ^{*3}、5肢Aタイプ及び5肢X2タイプ^{*4}の出題形式が用いられている。近年の保健師助産師看護師国家試験における出題形式別の出題割合や正解率等に大きな偏りはなく妥当である。引き続き、出題の意図や出題内容などに適した肢数や形式で出